

◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が4,418例あり、本年の累積報告数は64,341例になりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **レジオネラ症**(肺炎型)の報告が1例(70歳代男性)ありました。症状は発熱、咳嗽等です。本年の累積報告数は4例になりました。
- ・ **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**の報告が2例(70歳代男性及び80歳代女性)ありました。本年の累積報告数は7例になりました。
- ・ **クロイツフェルト・ヤコブ病**の報告が1例(70歳代男性)ありました。症状は進行性認知症、ミオクローヌス、無動性無言状態です。本年初めての報告です。
- ・ **梅毒**の報告が5例(30歳代男性1例、20歳代女性1例、30歳代女性2例、40歳代女性1例)(第9週追加報告分2例含む)あり、感染経路は全て性的接触、感染地域は国内です。本年の累積報告数は20例になりました。本年は、ほぼ毎週梅毒の報告があり、昨年同時期の7例と比較しても多い状況です。梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け、コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見、早期治療が非常に重要です。
- ・ **インフルエンザ**は、市内69の定点医療機関から報告はありませんでした。全国でも報告数は極めて少なく(今週は定点医療機関数約5,000から18例の報告)、現在のところ流行の兆候はありません。京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください。
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>
- ・ **小児科定点把握感染症**の推移は、前週までと大きな変化はありません。本市で流行の兆候の見られるものはありません。

◆ 今週のトピックス: <動物由来感染症>

春のこの時期は仔猫が生まれるシーズンであり、新たに猫を飼う人もいます。動物とふれあうことは癒しや豊かな心を育むなどプラスの面もありますが、その一方で感染症の発生源になりうるというマイナスの面もあります。動物から人間にもたらされる感染症のことを「動物由来感染症」といいます。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 4例(肺結核 1例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 1例)
【1月以降の累積報告数 46例(肺結核 19例, その他結核 14例, 潜在性結核感染者 13例)うち喀痰塗抹陽性 6例】
- ・ **新型コロナウイルス感染症 4,418例【1月以降の累積報告数64,341例】**
- ・ 四類: レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 五類: カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2例【1月以降の累積報告数7例】
- ・ 五類: クロイツフェルト・ヤコブ病 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類: 梅毒 5例【1月以降の累積報告数 20例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.09	90
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.47	20
	③ 突発性発しん	0.23	10
	④ 手足口病	0.19	8
	⑤ 水痘	0.02	1
	⑤ 伝染性紅斑	0.02	1
	⑤ ヘルパンギーナ	0.02	1
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.02	1
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <動物由来感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2022年3月16日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

第10週(3月7日～3月13日) トピックス: <動物由来感染症>

今週、本市では定点把握疾患に大きな変化はみられず、どの感染症も比較的低調に推移しています。しかし、定点把握疾患以外にも注意すべき感染症は数多くあります。

春のこの時期は仔猫が生まれるシーズンであり、新たに猫を飼う人もいると思います。新型コロナウイルス感染症の流行によって生活様式が変わり、流行前の2019年と比べると新たに飼い始められた犬猫の数、飼い始めた世帯数は増えています(図1)。動物とふれあうことは癒しや豊かな心を育むなどプラスの面もありますが、その一方で感染症の発生源になりうるというマイナスの面もあります。

動物から人間にもたらされる感染症のことを「動物由来感染症」といいます。ヒトの感染症のうちおよそ半分は動物由来感染症と言われており、そのなかには狂犬病やエキノコックス症、日本脳炎など、現代の日本では稀なもの、発症すると命にかかわる危険なものも含まれています。その一方で、アニサキス症やカンピロバクター症といった、比較的軽症ながら動物を飼っていないなくても遭遇しうるものもあり、多岐にわたる動物から多種多様な感染症がもたらされてきました。

たとえば、猫ひっかき病も動物由来感染症のひとつで、その名のとおり病原体を保有する猫にひっかかれたり咬まれたりして感染します(図2)。ヒトが感染するとリンパ節が腫れ、発熱、悪寒、倦怠感などいわゆる「風邪」に似た症状を起こします。猫は猫同士でけんかをしたり、ノミに刺されたりして感染します。猫はノミが増える夏に感染し、秋になって寒くなると室内にこもりがちになるため、猫ひっかき病は人間と接する機会が増える秋から冬にかけて多くなります。

動物由来感染症は動物にはわずかな症状しか起こさないか、あるいは全く症状を起こさないものがほとんどです。猫ひっかき病も猫にはほとんど症状が現れないため、飼い主が気を付ける必要があります。

動物由来感染症から身を守るためには、動物に触れたら手を洗う、過剰なふれあいはしない、野生動物を触ったり飼ったりしないことが大切です。たとえば、カメなどの爬虫類はサルモネラ属菌などを持っていることが多く、水槽の水や体液を介して人間に感染することが知られています。大切なペットであっても、動物を触ったら手をしっかり洗い、口移しで食べ物を与えたり食器を共有したりしないようにしましょう。

さらに詳しい情報は、次のウェブサイトをご覧ください。

○厚生労働省「動物由来感染症を知っていますか？」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000155663.html>

○京都市情報館「人と動物の共通感染症について」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000106808.html>

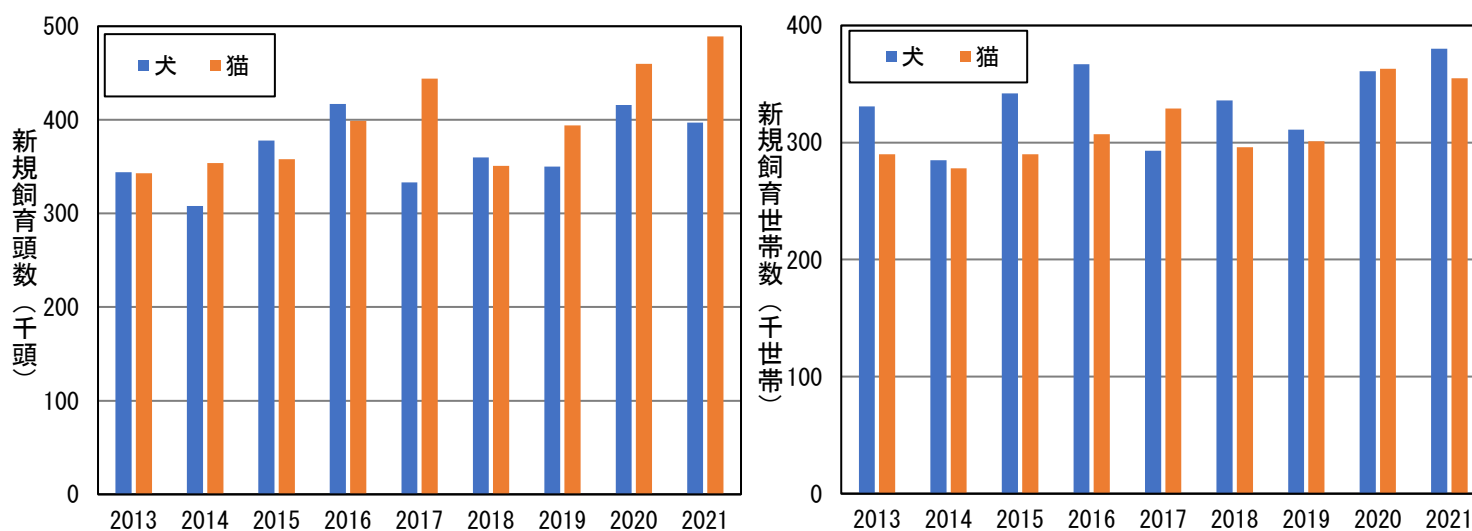


図1. 日本の推定新規飼育頭数・世帯数の推移^{*)}

^{*)}一般社団法人ペットフード協会「令和3年全国犬猫飼育実態調査」を基に作図。
(<https://petfood.or.jp/data/chart2021/index.html>)

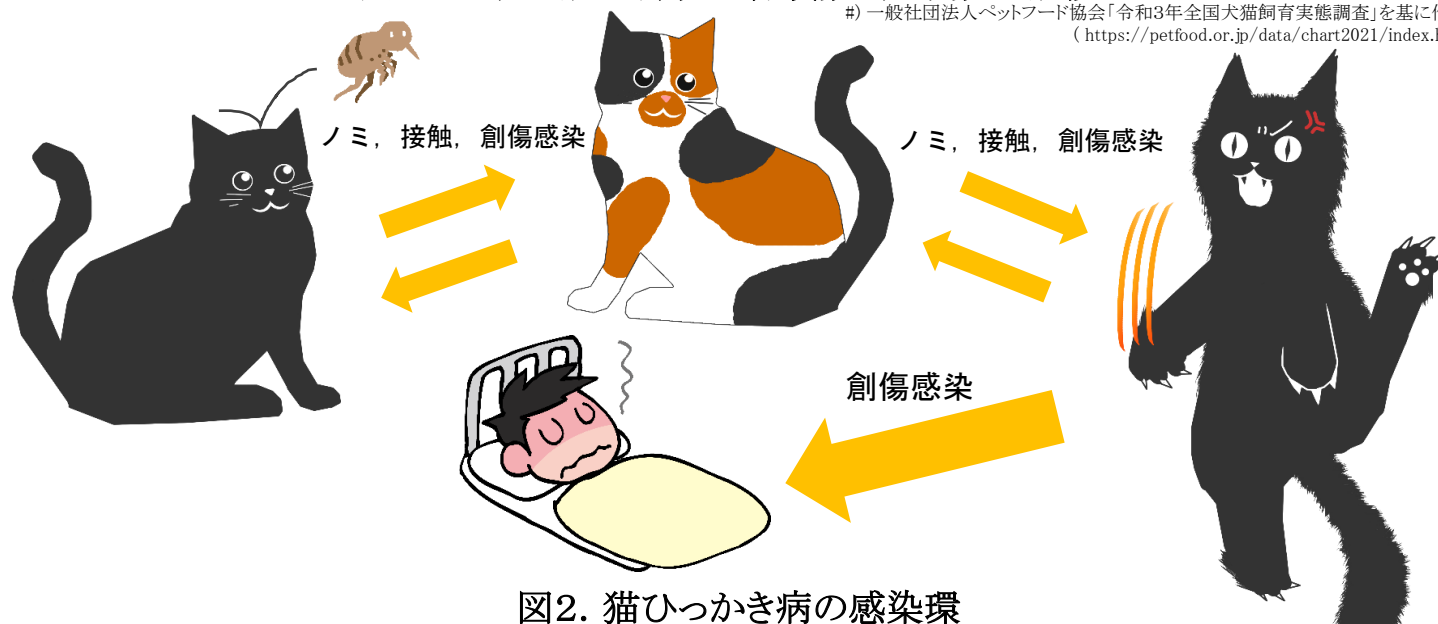


図2. 猫ひっかき病の感染環

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第10週

疾病,行政区別報告数

2022年3月7日～2022年3月13日

データ入手日:2022年3月16日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	9	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	1	2	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	1	2	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	-	13	14	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-
伏見	-	-	-	2	35	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	2	23	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	-	20	90	1	8	1	10	1	1	-	1	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	0.33	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	2.25	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	0.33	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	1.00	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	0.20	0.40	0.20	-	-	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	0.33	0.67	-	0.67	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	-	2.60	2.80	-	-	-	0.20	0.20	-	-	1.00	-	-	-	-	-
伏見	-	-	-	0.29	5.00	-	0.43	-	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	0.40	4.60	-	-	-	0.40	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	-	0.47	2.09	0.02	0.19	0.02	0.23	0.02	0.02	-	0.10	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第10週

年齢階級, 疾病別報告数

2022年3月7日～2022年3月13日

データ入手日:2022年3月16日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		20	1	1	2	1	2	3	4	-	-	1	1	2	1	1						
感染性胃腸炎		90	-	4	13	11	3	4	11	10	1	4	4	8	1	16						
水痘		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-					
手足口病		8	-	1	2	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
伝染性紅斑		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1					
突発性発しん		10	-	1	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
ヘルパンギーナ		1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-					
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.47	0.02	0.02	0.05	0.02	0.05	0.07	0.09	-	-	0.02	0.02	0.05	0.02	0.02						
感染性胃腸炎		2.09	-	0.09	0.30	0.26	0.07	0.09	0.26	0.23	0.02	0.09	0.09	0.19	0.02	0.37						
水痘		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-						
手足口病		0.19	-	0.02	0.05	0.09	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
伝染性紅斑		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02						
突発性発しん		0.23	-	0.02	0.19	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-						
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第10週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2022年3月16日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	1	-	1	-	-
RSウイルス感染症	1	2	-	-	2	-
咽頭結膜熱	2	3	3	1	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	6	11	26	5	20
感染性胃腸炎	146	111	113	100	102	90
水痘	1	-	-	2	1	1
手足口病	3	1	1	3	1	8
伝染性紅斑	-	-	-	3	-	1
突発性発しん	4	3	6	4	8	10
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	1
流行性耳下腺炎	-	1	1	-	1	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	2	1	-	1
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	164	128	137	141	121	133

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	0.01	-	0.01	-	-
RSウイルス感染症	0.02	0.05	-	-	0.05	-
咽頭結膜熱	0.05	0.07	0.07	0.02	0.02	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.16	0.14	0.26	0.60	0.12	0.47
感染性胃腸炎	3.40	2.58	2.63	2.33	2.37	2.09
水痘	0.02	-	-	0.05	0.02	0.02
手足口病	0.07	0.02	0.02	0.07	0.02	0.19
伝染性紅斑	-	-	-	0.07	-	0.02
突発性発しん	0.09	0.07	0.14	0.09	0.19	0.23
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	0.02
流行性耳下腺炎	-	0.02	0.02	-	0.02	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	0.20	0.10	-	0.10
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	3.81	2.97	3.34	3.35	2.81	3.17

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。